



TOYOTA BOSHOKU

東証プライム 証券コード 3116

2022年度（2023年3月期）

第3四半期 決算説明会

開催日：2023年2月3日

目次

1. 2022年度第3四半期 決算状況
2. 2022年度 通期業績予想
3. 参考情報

目次

1. 2022年度第3四半期 決算状況

2. 2022年度 通期業績予想

3. 参考情報

- ◆本日は、お忙しい中、
当社の2022年度 第3四半期 決算説明会にご出席いただきまして、ありがとうございます。
- ◆はじめに、2022年度 第3四半期の決算状況、
続いて、通期の業績予想をご説明いたします。
- ◆それでは、2022年度 第3四半期の決算状況について
ご説明いたします。

1-1) 2022年度第3四半期 決算状況 連結決算概要

(億円)

	21年度 第3四半期実績		22年度 第3四半期実績		増減	
	金額	対前年増減率	金額	対前年増減率	金額	対前年増減率
売上収益	10,349	100.0%	11,691	100.0%	1,342	13.0%
営業利益	424	4.1%	286	2.4%	△138	△32.6%
税引前利益	448	4.3%	331	2.8%	△117	△26.2%
当期利益*	244	2.4%	87	0.8%	△157	△64.2%

*親会社の所有者に帰属する当期利益

1株当たり四半期利益		131円1銭	46円94銭	
為替レート	USドル	111円	137円	+ 25円
	1-円	131円	141円	+ 10円

売上収益

日本での部品供給問題などに起因する減産影響はあるものの、海外での増産や為替影響などにより増収

営業利益

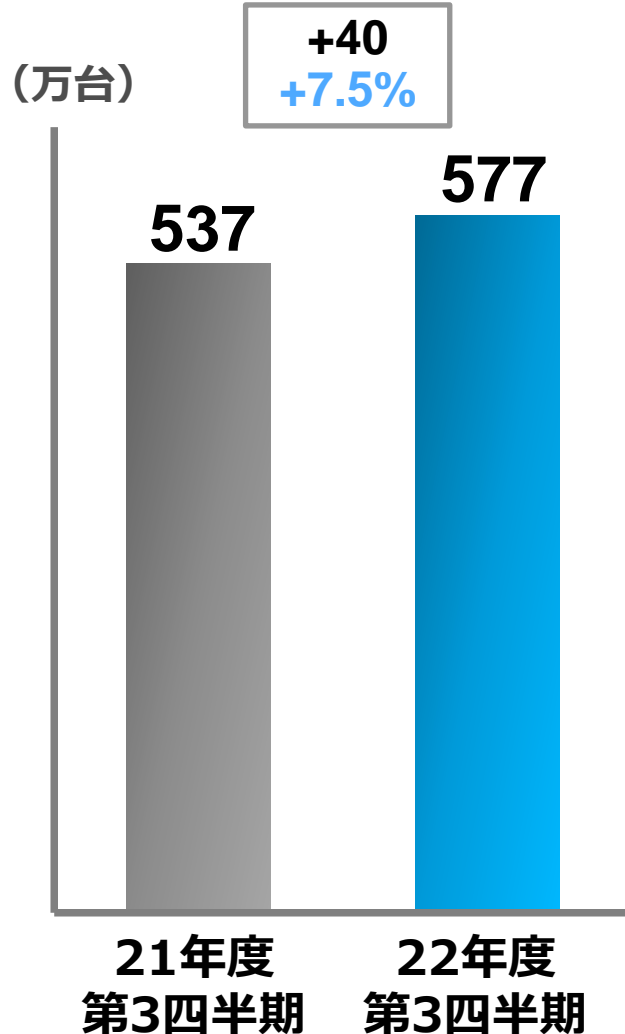
増産効果はあるものの、車種構成悪化や諸経費の増加に加え、ロシア事業終了に伴う費用の計上などにより減益

スクリプト

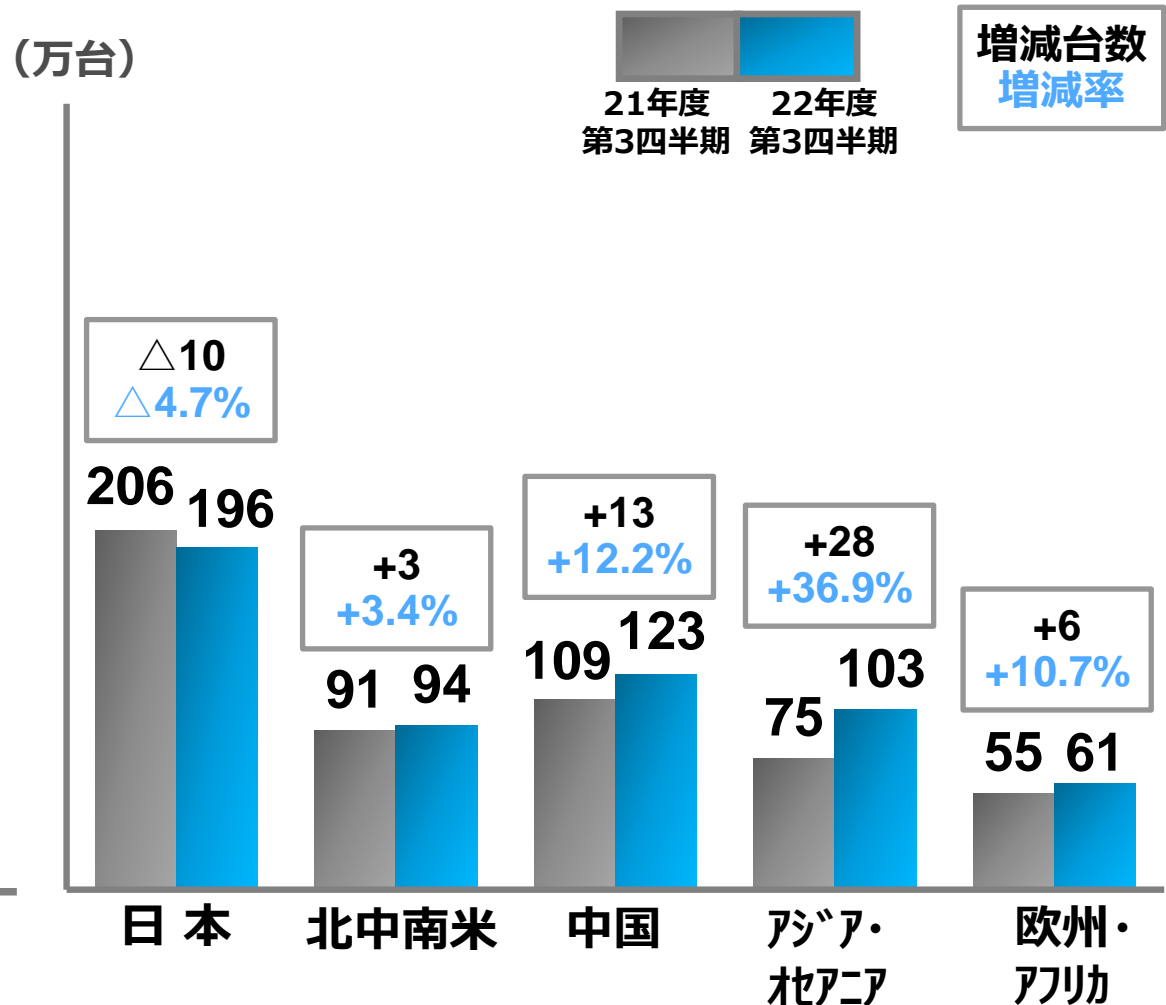
- ◆ 売上収益は、前期比1,342億円増加の1兆1,691億円。
- ◆ 営業利益は、前期比138億円減益の286億円となりました。
- ◆ 税引前利益は、前期比117億円減益の331億円。
- ◆ 親会社の所有者に帰属する当期利益は、前期比157億円減益の87億円となりました。
- ◆ 為替レートは、1ドル137円、1ユーロ141円でございます。
なお、前年同期からの為替影響につきましては、
売上収益でプラス937億円、営業利益でプラス51億円
増加する方向に効いております。

1-2) 2022年度第3四半期 決算状況 地域別シート生産台数

連結全体



セグメント別



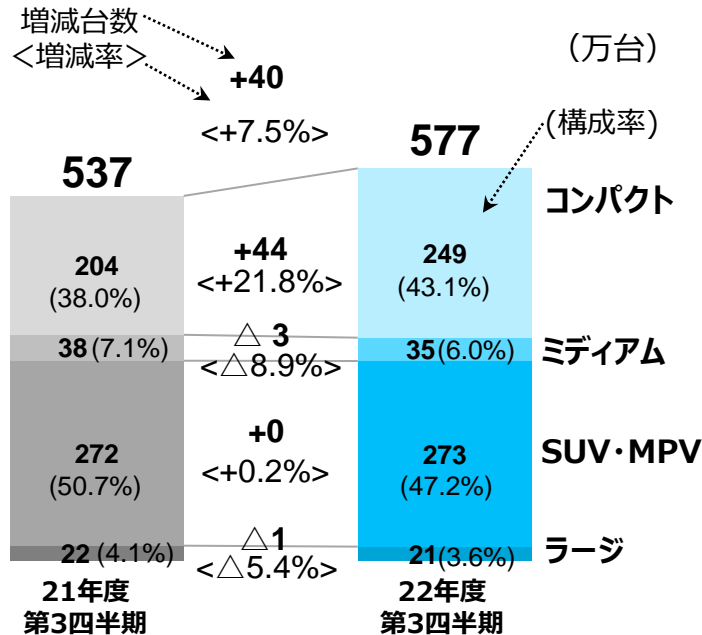
スクリプト

- ◆ 続きまして、私どもの主力製品であるシートの生産台数ですが、連結全体では、前期比プラス40万台の577万台となりました。
- ◆ 地域別は、ご覧の通りとなっておりますが、詳細は、地域別のページにてご説明いたします。

1-3) 2022年度第3四半期 決算状況 連結 売上収益・営業利益

増産効果はあるものの、車種構成悪化や諸経費の増加に加え、ロシア事業終了に伴う費用の計上などにより減益

台数・車種構成の変化

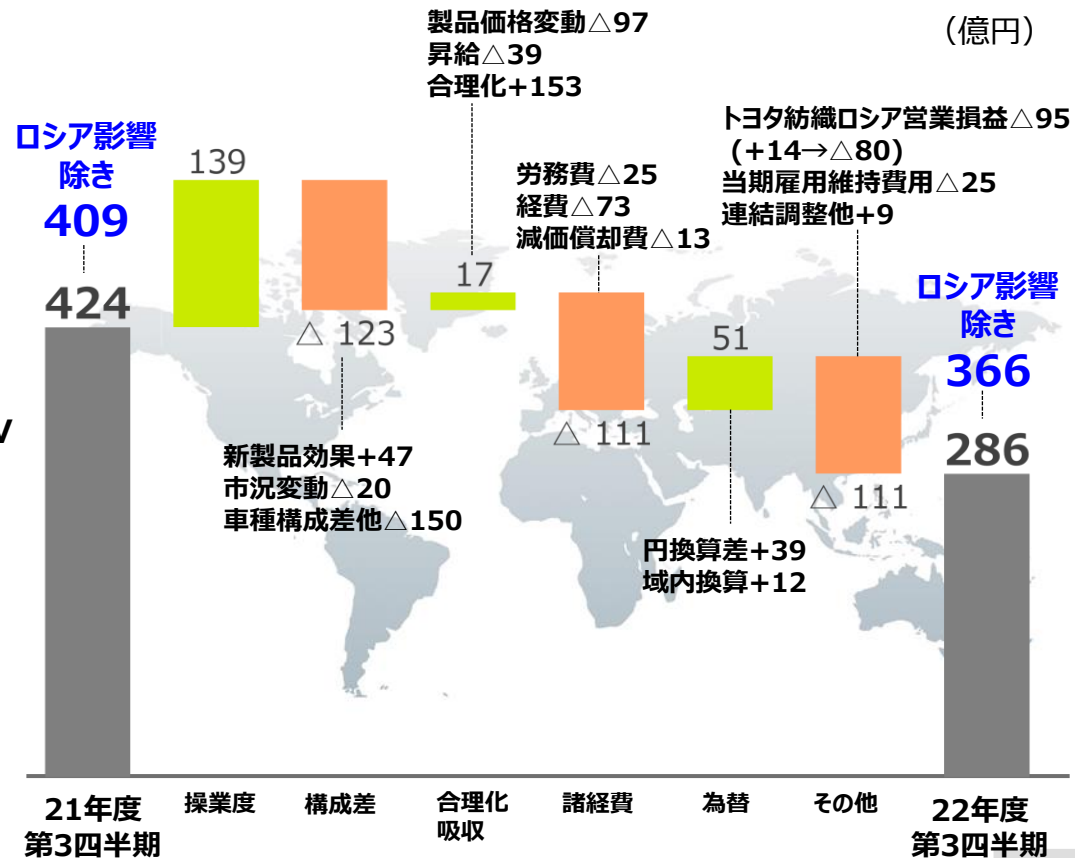


当期の経営成績

(億円)

	21年度3Q	22年度3Q	増減
売上収益	10,349	11,691	1,342
営業利益	424	286	△138
営業利益率	4.1%	2.4%	-

営業利益の増減解析 (前期比)



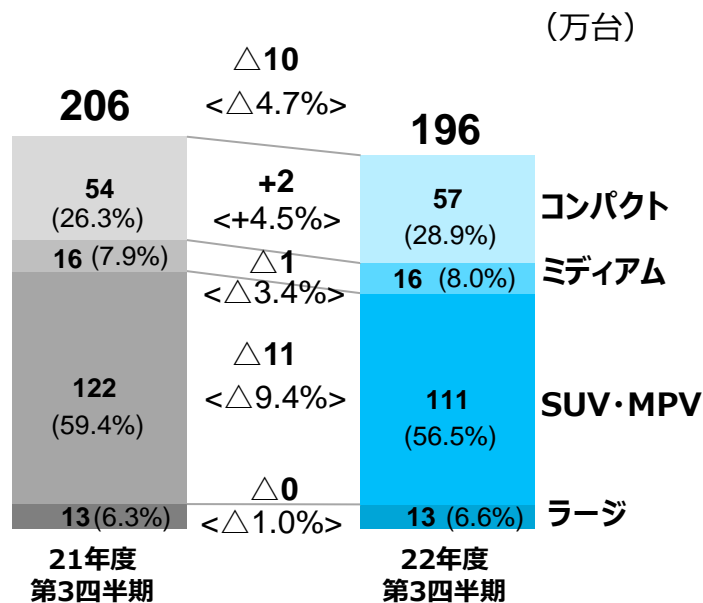
スクリプト

- ◆次に、連結の業績についてご説明いたします。
- ◆台数ですが、前期比プラス40万台の577万台となりました。
- ◆売上収益は、前期比1,342億円増加の1兆1,691億円。
- ◆営業利益は、
海外地域での増産効果はありますが、車種構成悪化や諸経費の増加に加え、ロシア事業終了に伴う費用の計上などにより
138億円減益の286億円となりました。

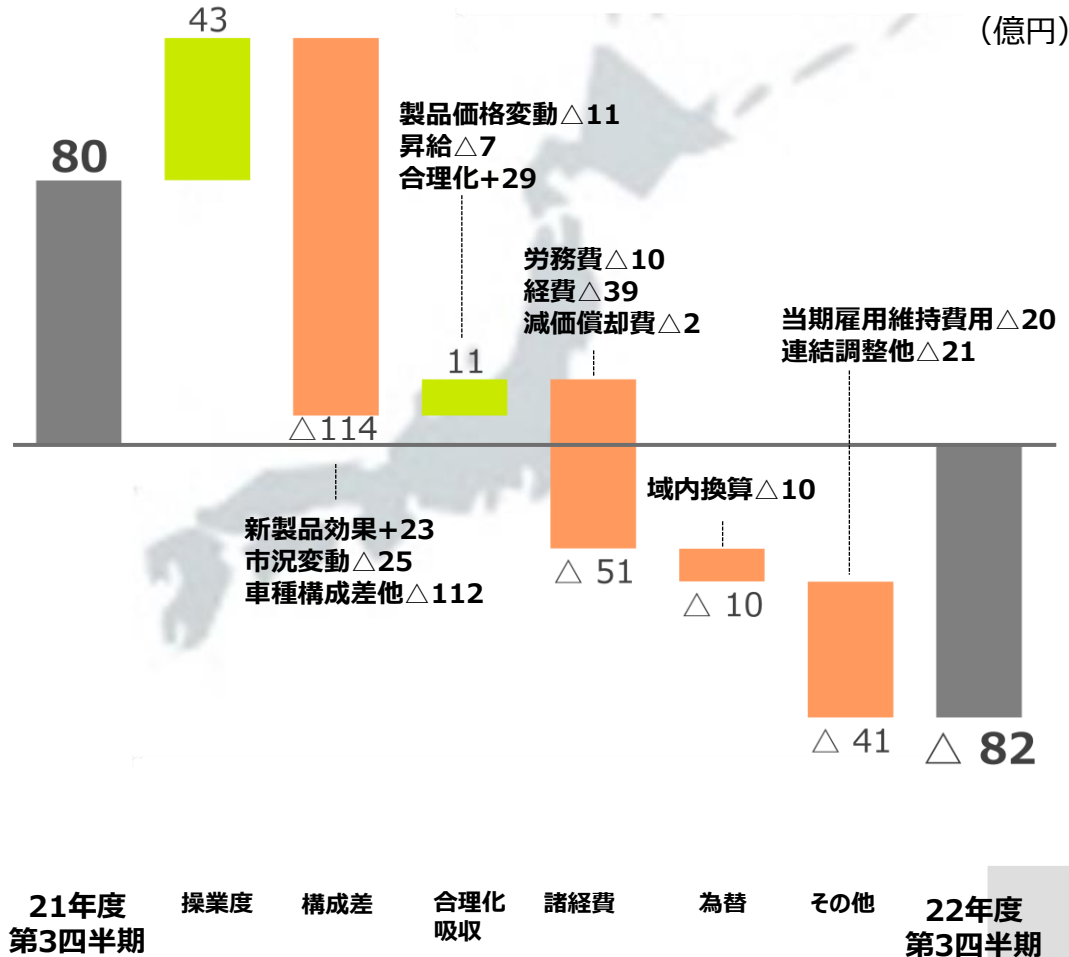
1-3) 2022年度第3四半期 決算状況 日本 売上収益・営業利益

部品供給問題に起因するSUV・MPV車種の減産に加え、
車種内グレードMixの変化や諸経費の増加などにより減益

台数・車種構成の変化



営業利益の増減解析 (前期比)



当期の経営成績

(億円)

	21年度3Q	22年度3Q	増減
売上収益	5,191	5,063	△127
営業利益	80	△82	△163
営業利益率	1.5%	△1.6%	-

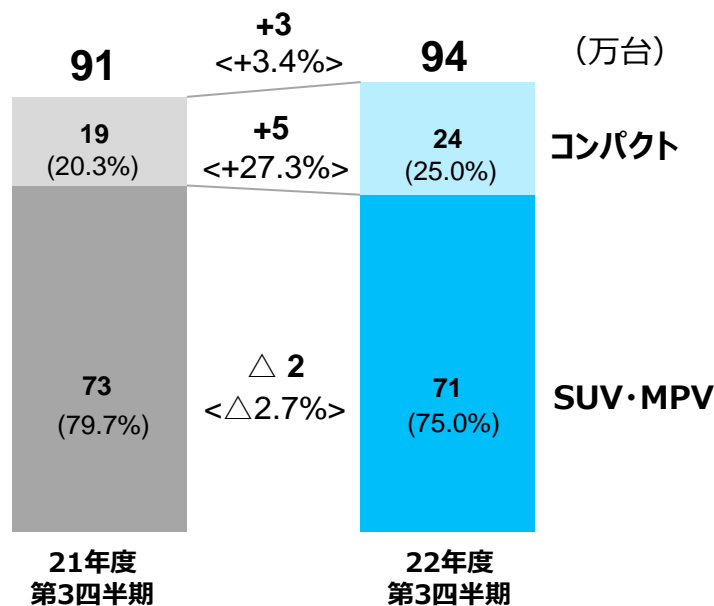
スクリプト

- ◆次に、日本ですが、
- ◆台数は、前期比マイナス10万台の196万台となりました。
- ◆売上収益は、前期比127億円減少の5,063億円。
- ◆営業利益は、
部品供給問題に起因するSUV・MPV車種の減産に加え、
車種内グレードミックスの変化や諸経費の増加などにより
163億円減益の82億円の赤字となりました。

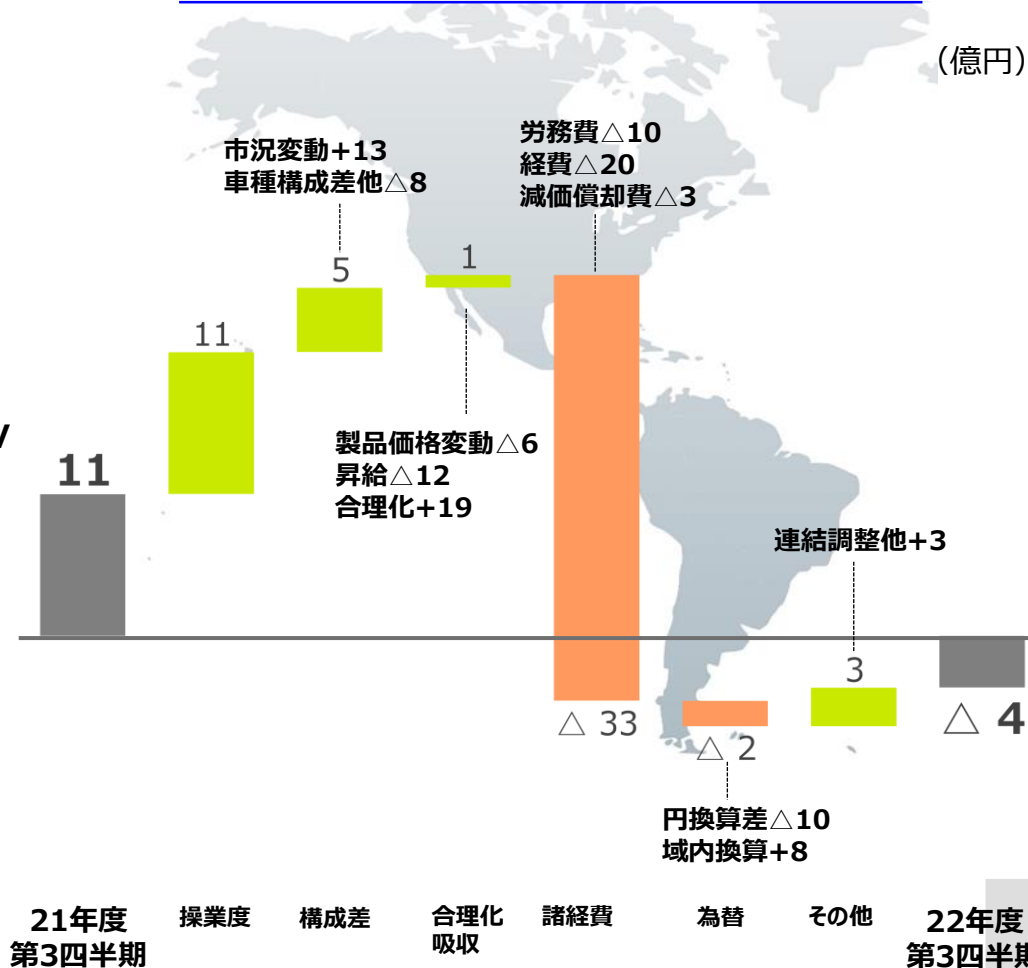
1-3) 2022年度第3四半期 決算状況 北中南米 売上収益・営業利益

増産効果や昨年度インフレ影響の客先回収はあるものの、
モデルチェンジや新車種立ち上がりに伴う諸経費の増加などにより減益

台数・車種構成の変化



営業利益の増減解析 (前期比)



当期の経営成績

	21年度3Q	22年度3Q	増減
売上収益	2,313	2,848	534
営業利益	11	△4	△16
営業利益率	0.5%	△0.1%	-

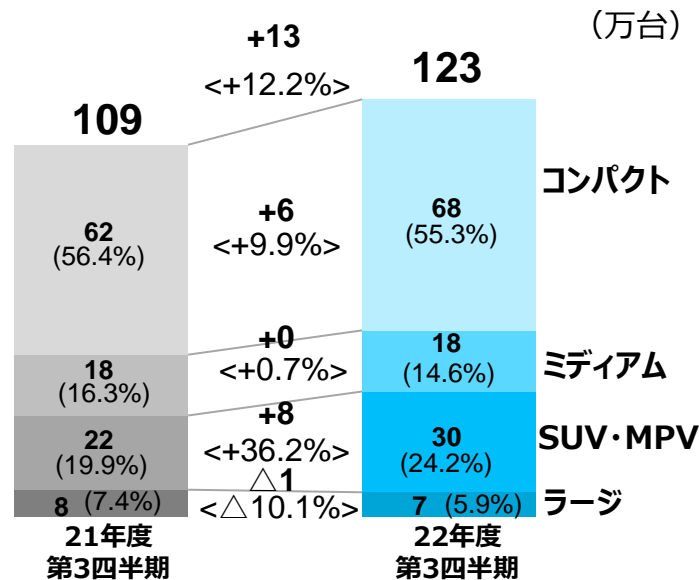
スクリプト

- ◆次に、北中南米ですが、
- ◆台数は、前期比プラス3万台の94万台となりました。
- ◆売上収益は、前期比534億円増加の2,848億円。
- ◆営業利益は、
増産効果や昨年度インフレ影響の客先回収はありますが、
モデルチェンジや新車種立ち上がりに伴う諸経費の増加などにより
16億円減益の4億円の赤字となりました。

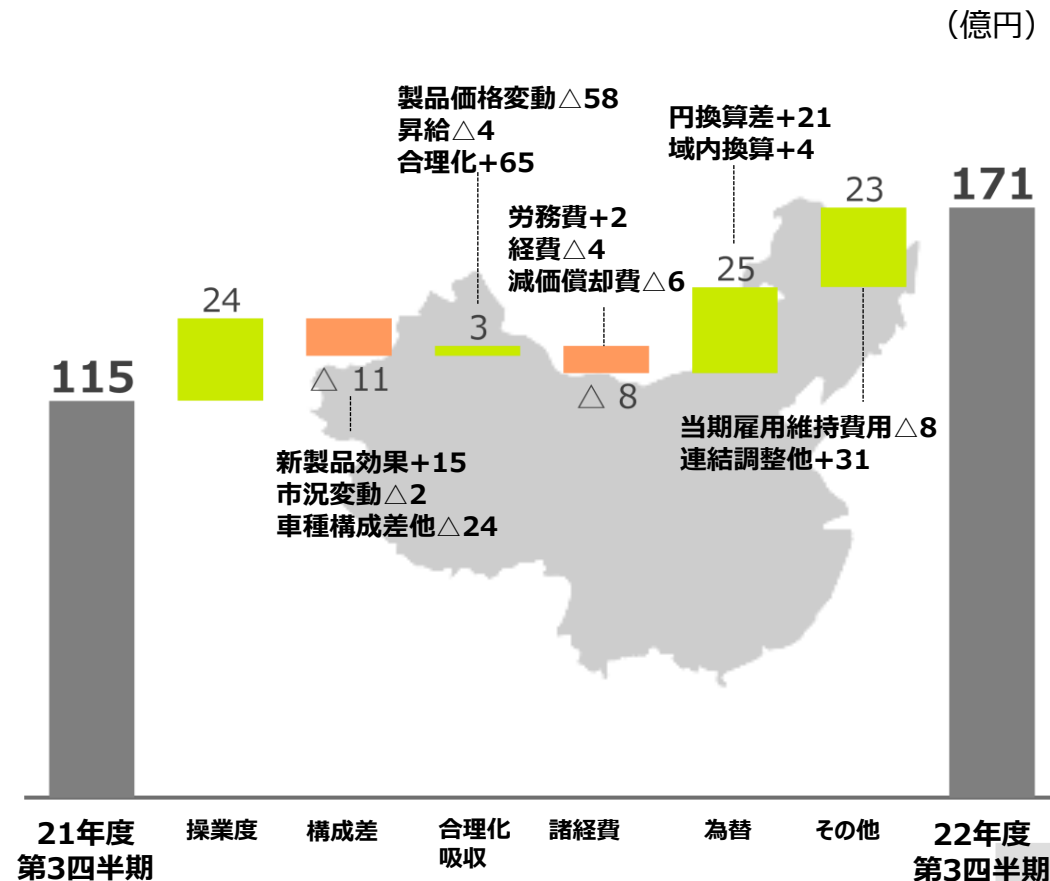
1-3) 2022年度第3四半期 決算状況 中国 売上収益・営業利益

昨年度下期の新車投入などによる増産効果や新製品効果などにより増益

台数・車種構成の変化



営業利益の増減解析 (前期比)



当期の経営成績

(億円)

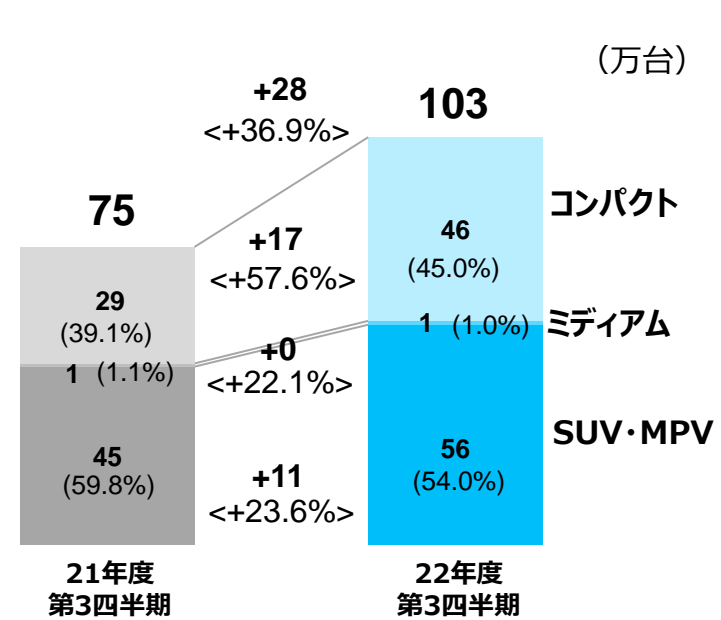
	21年度3Q	22年度3Q	増減
売上収益	1,521	1,897	376
営業利益	115	171	56
営業利益率	7.6%	9.1%	-

- ◆次に、中国ですが、
- ◆台数は、前期比プラス13万台の123万台となりました。
- ◆売上収益は、前期比376億円増加の1,897億円。
- ◆営業利益は、
昨年度下期の新車投入などによる増産効果や新製品効果などにより
56億円増益の171億円となりました。

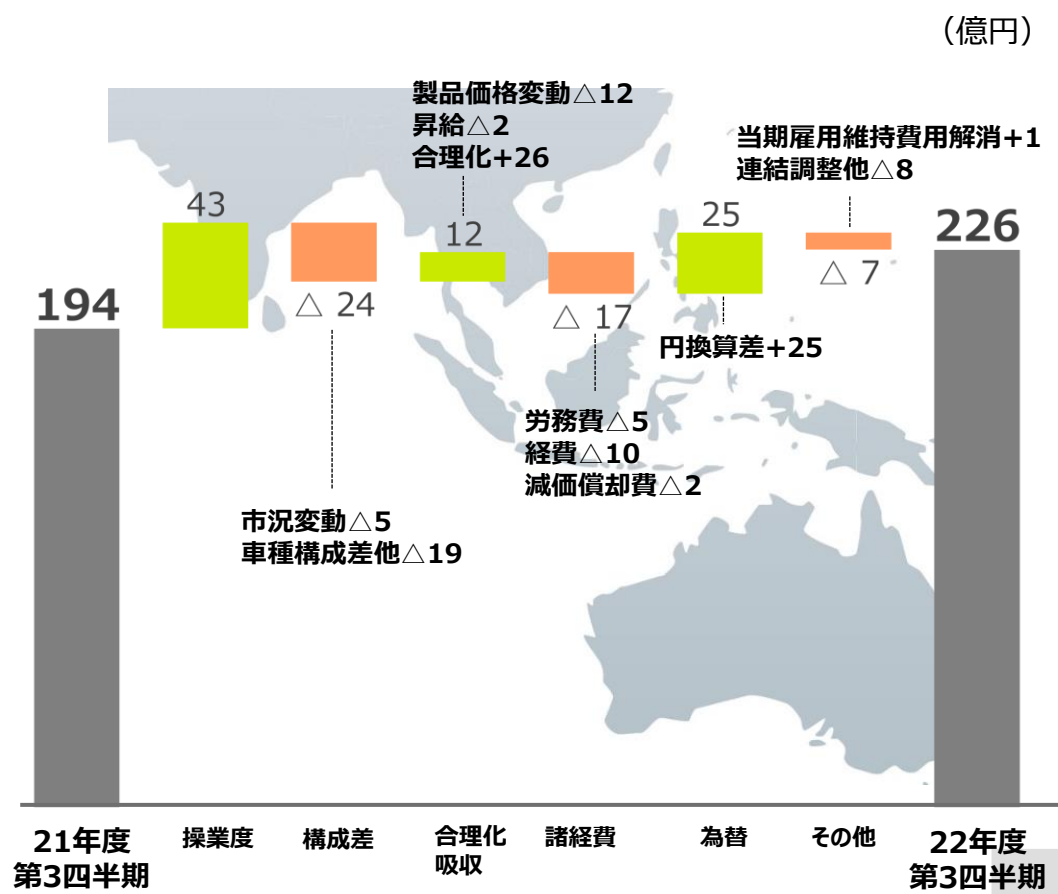
1-3) 2022年度第3四半期 決算状況 アジア・セアニア 売上収益・営業利益

インドネシア・インド拡販等による増産効果や為替の影響などにより増益

台数・車種構成の変化



営業利益の増減解析 (前期比)



当期の経営成績

	21年度3Q	22年度3Q	増減
売上収益	1,347	1,857	509
営業利益	194	226	32
営業利益率	14.4%	12.2%	-

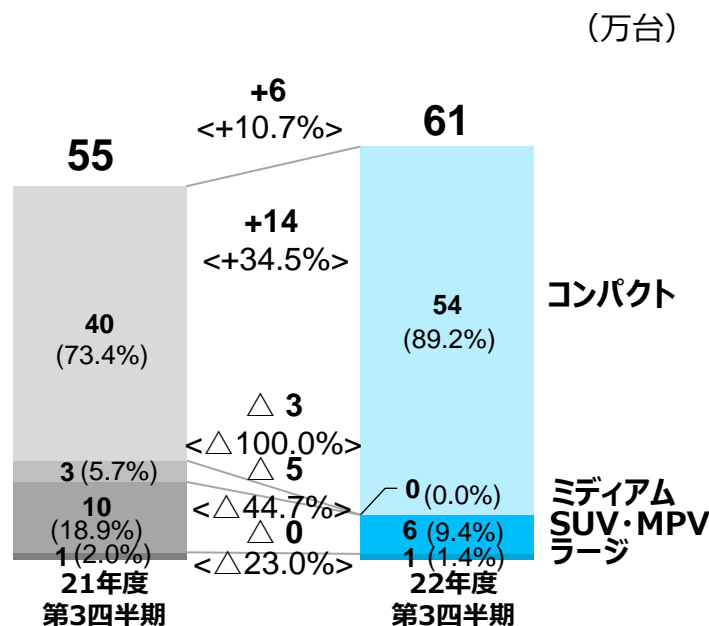
スクリプト

- ◆次に、アジア・オセアニアですが、
- ◆台数は、前期比プラス28万台の103万台となりました。
- ◆売上収益は、前期比509億円増加の1,857億円。
- ◆営業利益は、
インドネシア・インドでの拡販等による増産効果や為替の影響
などにより
32億円増益の226億円となりました。

1-3) 2022年度第3四半期 決算状況 欧州・アフリカ 売上収益・営業利益

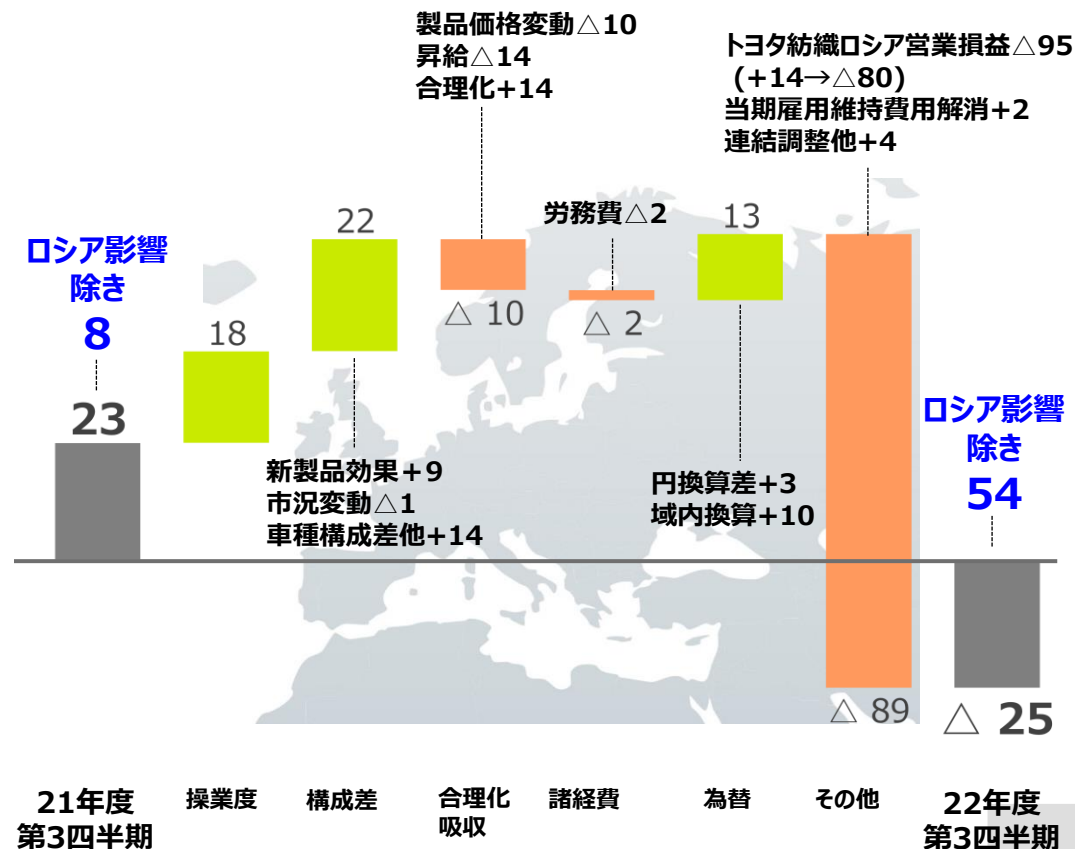
ロシア事業を除き、増産効果や車種構成の変化などにより増益

台数・車種構成の変化



営業利益の増減解析 (前期比)

(億円)



当期の経営成績

(億円)

	21年度3Q	22年度3Q	増減
売上収益	656	786	129
営業利益	23	△25	△49
営業利益率	3.6%	△3.2%	-

スクリプト

- ◆次に、欧州・アフリカですが、
- ◆台数は、前期比プラス6万台の61万台となりました。
- ◆売上収益は、前期比129億円増加の786億円。
- ◆営業利益は、
ロシア事業終了に伴う一過性の減益要因のため
49億円減益の25億円の赤字となりました。
一方、ロシア事業を除きますと、増産効果や車種構成の変化
などにより増益となります。

目次

1. 2022年度第3四半期 決算状況

2. 2022年度 通期業績予想

3. 参考情報

◆続いて、2022年度の業績予想についてご説明いたします。

2-1) 2022年度 通期業績予想 連結決算概要

(億円)

	21年度 通期実績		22年度 通期予想		増減		22年度通期予想 (前回公表)	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率
売上収益	14,214	100.0%	15,600	100.0%	1,385	9.7%	15,600	100.0%
営業利益	602	4.2%	430	2.8%	△172	△28.7%	430	2.8%
税引前利益	645	4.5%	510	3.3%	△135	△21.0%	510	3.3%
当期利益*	392	2.8%	250	1.6%	△142	△36.3%	250	1.6%

*親会社の所有者に帰属する当期利益

1株当たり当期利益	210円15銭	133円81銭	133円81銭		
為替レート	USドル	112円	135円	+23円	135円
	1-0	131円	140円	+9円	140円

売上収益

グローバルでの増産や為替影響などにより増収

営業利益

増産効果はあるものの、車種構成悪化や諸経費の増加に加え、ロシア事業終了に伴う費用の計上などにより減益

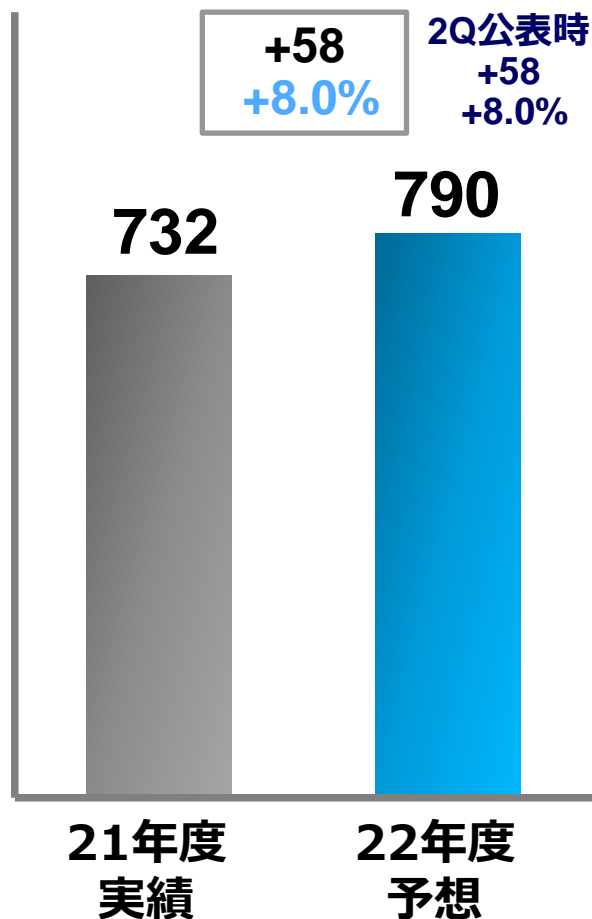
スクリプト

- ◆売上収益は、前期比1,385億円増加の1兆5,600億円と予想しております。
- ◆営業利益は、前期比172億円減益の430億円。
- ◆税引前利益は、前期比135億円減益の510億円。
- ◆親会社の所有者に帰属する当期利益は、前期比142億円減益の250億円をそれぞれ予想しております。
- ◆為替レートは、1ドル135円、1ユーロ140円を前提としております。

2-2) 2022年度 通期業績予想 地域別シート生産台数

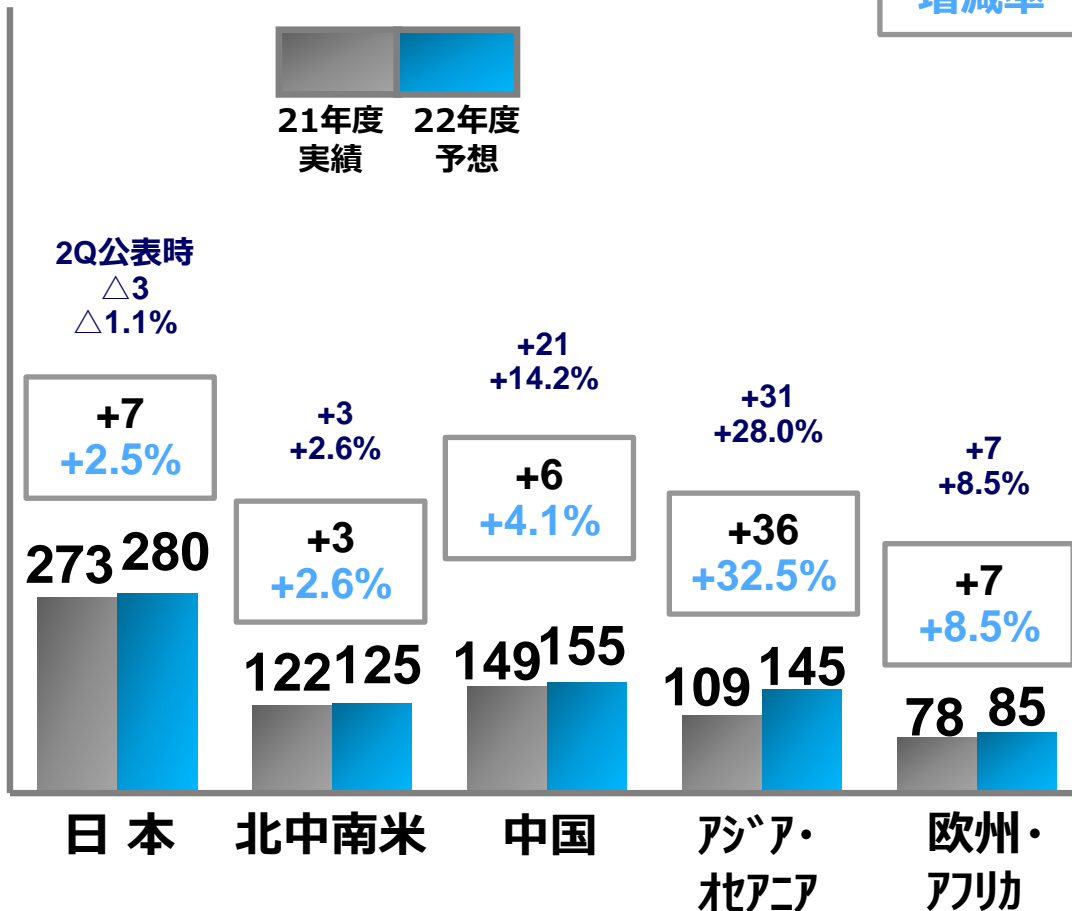
連結全体

(万台)



セグメント別

(万台)



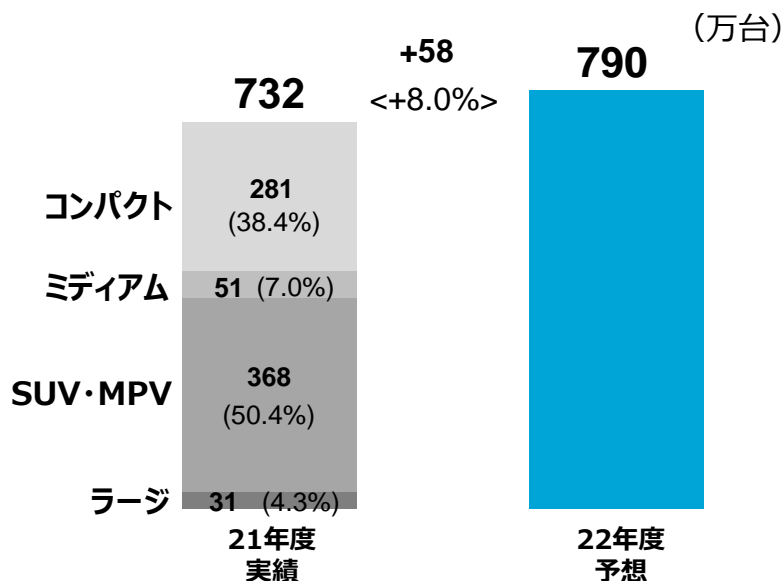
増減台数
増減率

- ◆次に、シート生産台数ですが、
連結全体では、前期比プラス58万台の790万台と
予想しております。
- ◆地域別は、ご覧の通りとなっておりますが、
詳細は、地域別のページにてご説明いたします。
なお、前回公表との比較では総台数は変わりありませんが、
地域別では日本での増産、中国での減産を見込んでおります。

2-3) 2022年度 通期業績予想 連結 売上収益・営業利益

増産効果はあるものの、車種構成悪化や諸経費の増加に加え、ロシア事業終了に伴う費用の計上などにより減益

台数・車種構成の変化



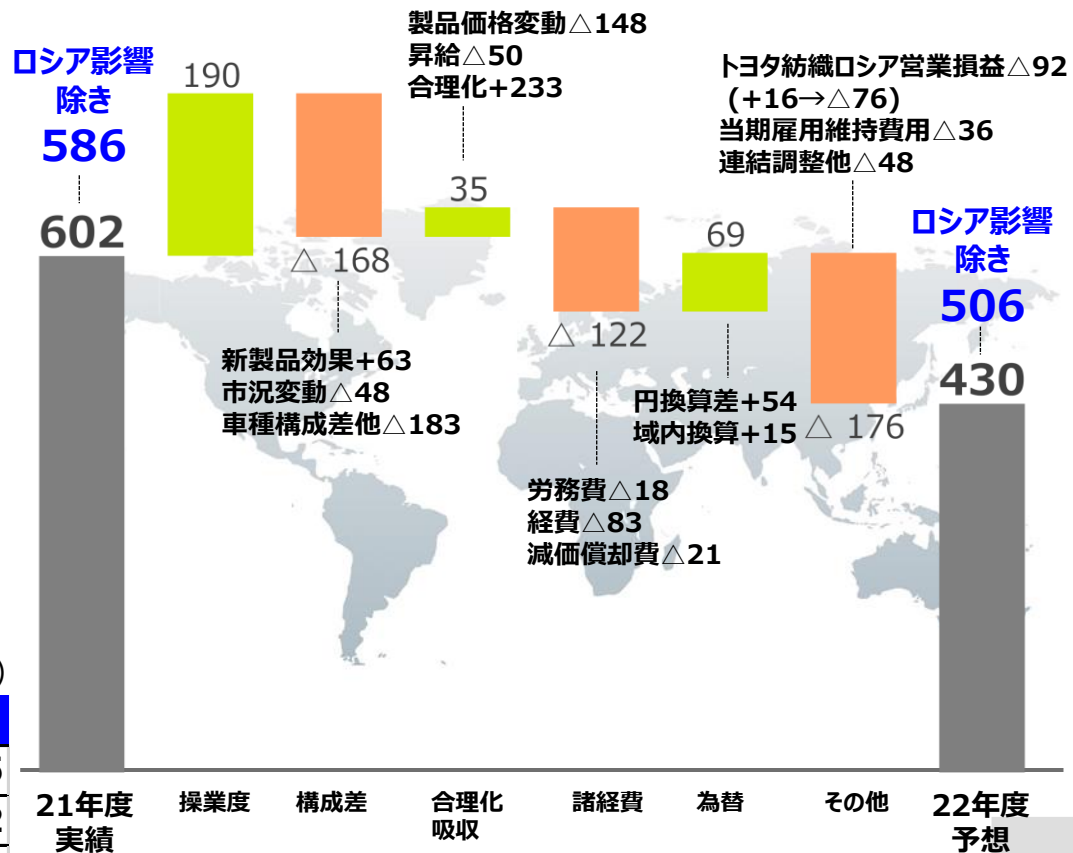
当期の経営成績

(億円)

	21年度実績	22年度予想	増減
売上収益	14,214	15,600	1,385
営業利益	602	430	△ 172
営業利益率	4.2%	2.8%	-

営業利益の増減解析 (前期比)

(億円)



スクリプト

- ◆次に、連結の売上収益・営業利益についてご説明いたします。
- ◆台数は前期比プラス58万台の790万台となる見通しです。
- ◆売上収益は、前期比1,385億円増加の1兆5,600億円。
- ◆営業利益は、
グローバルでの需要回復による増産効果はありますが、
車種構成悪化や諸経費の増加に加え、
ロシア事業終了に伴う費用の計上などにより
前期比172億円減益の430億円を想定しております。

2-3) 2022年度 通期業績予想 前回公表時との比較

営業利益 増減分析

(億円)

	前回公表時	今回公表	計	増 減	
				社内努力	環境変化
21年度実績	602	602	+0	-	-
操業度	182	190	+8	-	+8
構成差	△150	△168	△18	+11	△29
合理化吸収	42	35	△7	-	△7
諸経費	△135	△122	+13	+13	-
為替	68	69	+1	-	+1
その他	△179	△176	+3	-	+3
22年度予想	430	430	+0	+24	△24

・前回公表のアルゼンチンでのインフレ影響をその他に集約

スクリプト

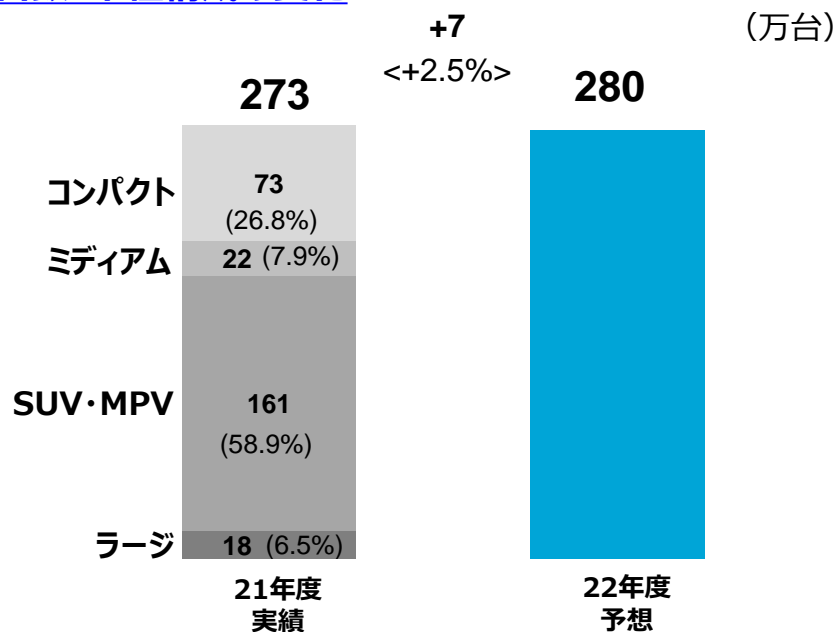
- ◆次に、前回公表時との比較についてご説明いたします。
- ◆市況高騰影響の縮小などはあるものの、2Q公表時と比べ日本での車種構成悪化や新製品効果の減少など、外部環境の悪化を見込んでおります。
- ◆一方で社内努力として型費の回収や諸経費の効率化などにより、外部環境変化による影響の最小化に努めます。

2-4) 2022年度 通期業績予想 地域別 売上収益・営業利益

日本

第4四半期での増産効果はあるものの、
原材料の高騰や車種構成悪化、
諸経費の増加などにより減益の見込み

台数・車種構成の変化



当期の経営成績

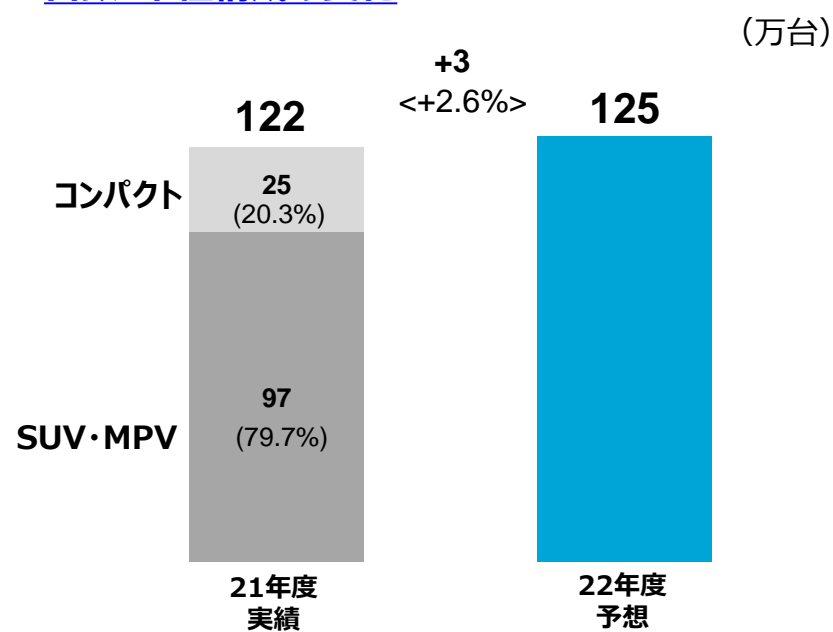
(億円)

	21年度実績	22年度予想	増減
売上収益	7,006	6,900	△106
営業利益	96	△60	△156
営業利益率	1.4%	△0.9%	-

北中南米

増産効果などの増益要因はあるものの、
生準費など諸経費の増加などにより
減益の見込み

台数・車種構成の変化



当期の経営成績

(億円)

	21年度実績	22年度予想	増減
売上収益	3,177	3,800	622
営業利益	29	△10	△39
営業利益率	0.9%	△0.3%	-

スクリプト

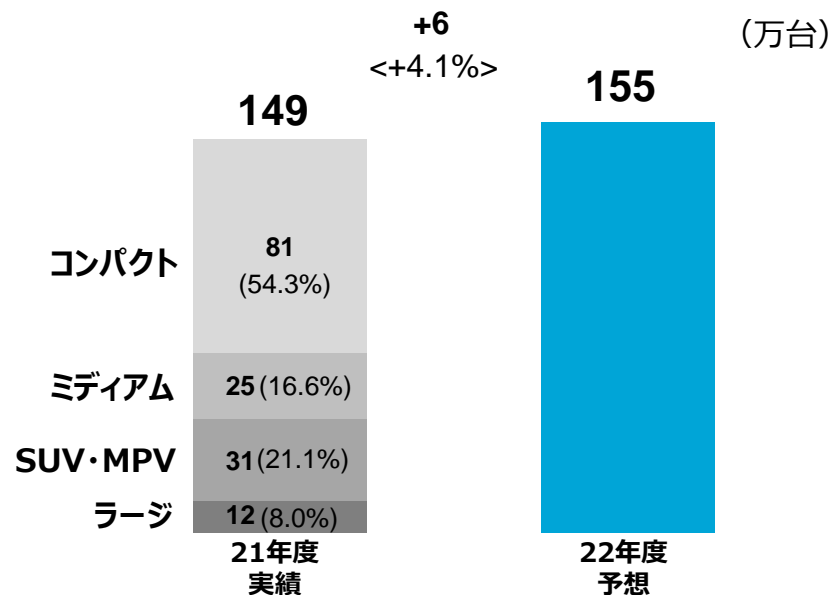
- ◆次に、地域別の業績予想をご説明いたします。
- ◆まず日本ですが、
台数は、前期比プラス7万台の280万台となる見通しです。
- ◆売上収益は、前期比106億円減少の6,900億円。
- ◆営業利益は、第4四半期での増産効果はありますが、
原材料の高騰や車種構成悪化、諸経費の増加などにより、
前期比156億円減益の60億円の赤字となる見込みです。
- ◆次に、北中南米ですが、
台数は、前期比プラス3万台の125万台となる見通しです。
- ◆売上収益は、前期比622億円増加の3,800億円。
- ◆営業利益は、増産効果などの増益要因はありますが、
生準費など諸経費の増加により、
前期比39億円減益の10億円の赤字となる見込みです。

2-4) 2022年度 通期業績予想 地域別 売上収益・営業利益

中国

第3四半期以降の市場の不透明感はあるものの、増産効果や為替の影響などにより増益の見込み

台数・車種構成の変化



当期の経営成績

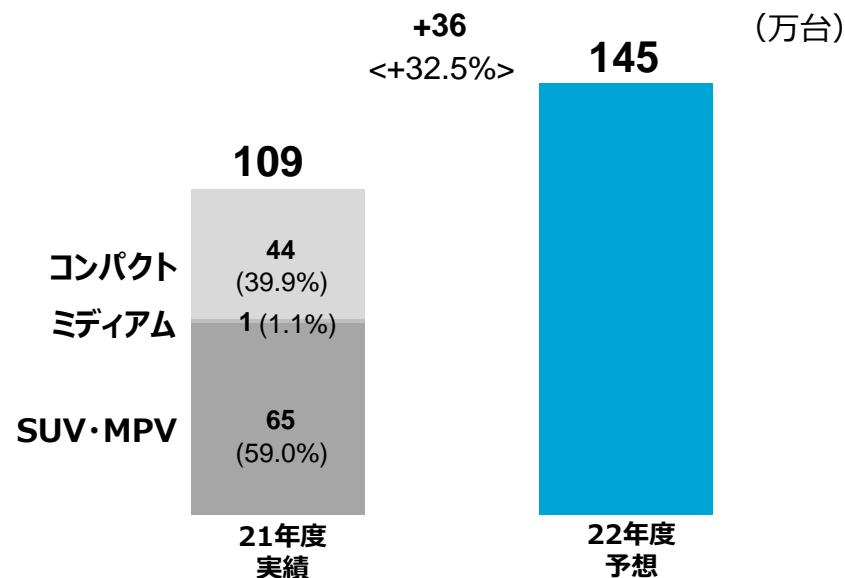
	21年度実績	22年度予想	増減
売上収益	2,121	2,400	278
営業利益	157	200	42
営業利益率	7.4%	8.3%	—

(億円)

アジア・セアニア

堅調な市場動向に加え、インドネシア・インド 拡販や為替の影響などにより増益の見込み

台数・車種構成の変化



当期の経営成績

	21年度実績	22年度予想	増減
売上収益	1,904	2,500	595
営業利益	267	290	22
営業利益率	14.0%	11.6%	—

(億円)

スクリプト

- ◆次に、中国ですが、

 - 台数は、前期比プラス6万台の155万台となる見通しです。

- ◆売上収益は、前期比278億円増加の2,400億円。

- ◆営業利益は、第3四半期以降の市場の不透明感がありますが、増産効果や為替の影響などにより

 - 前期比42億円増益の200億円となる見込みです。

- ◆次に、アジア・オセアニアですが、

 - 台数は、前期比プラス36万台の145万台となる見通しです。

- ◆売上収益は、前期比595億円増加の2,500億円。

- ◆営業利益は、堅調な市場動向に加え、インドネシア・インドでの拡販や為替の影響などにより

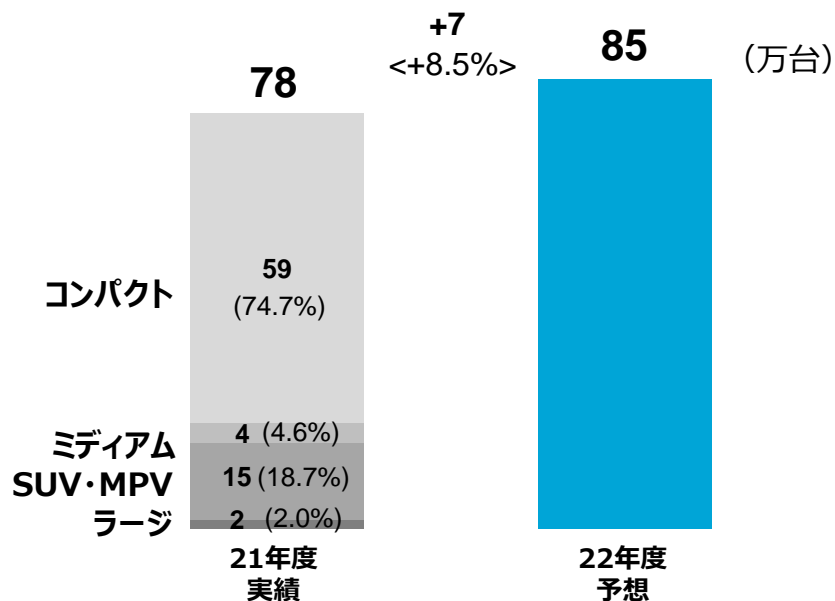
 - 前期比22億円増益の290億円となる見込みです。

2-4) 2022年度 通期業績予想 地域別 売上収益・営業利益

欧州・アフリカ

ロシア事業を除き、増産効果や車種構成の変化などにより増益の見込み

台数・車種構成の変化



当期の経営成績

(億円)

	21年度実績	22年度予想	増減
売上収益	962	1,100	137
営業利益	(36) 53	(86) 10	(49) △43
営業利益率	5.5%	0.9%	-

()内 ロシア除き

スクリプト

- ◆次に、欧州・アフリカですが、
台数は、前期比プラス7万台の85万台となる見通しです。
- ◆売上収益は、前期比137億円増加の1,100億円。
- ◆営業利益は、ロシア事業終了に伴う費用の計上など一過性の減益要因により前期比43億円減益の10億円となる見込みです。
一方でロシア事業を除きますと、増産効果や車種構成の変化などにより49億円の増益となる見込みです。

2-5) 2022年度 通期業績予想 地域別・上下別

売上収益

(億円)

	上期	下期	通期
日本	3,255	3,644	6,900
北中南米	1,967	1,832	3,800
中国	1,269	1,130	2,400
アジア・オセアニア	1,160	1,339	2,500
欧州・アフリカ	463	636	1,100
連結全体	7,618	7,981	15,600

営業利益

(億円)

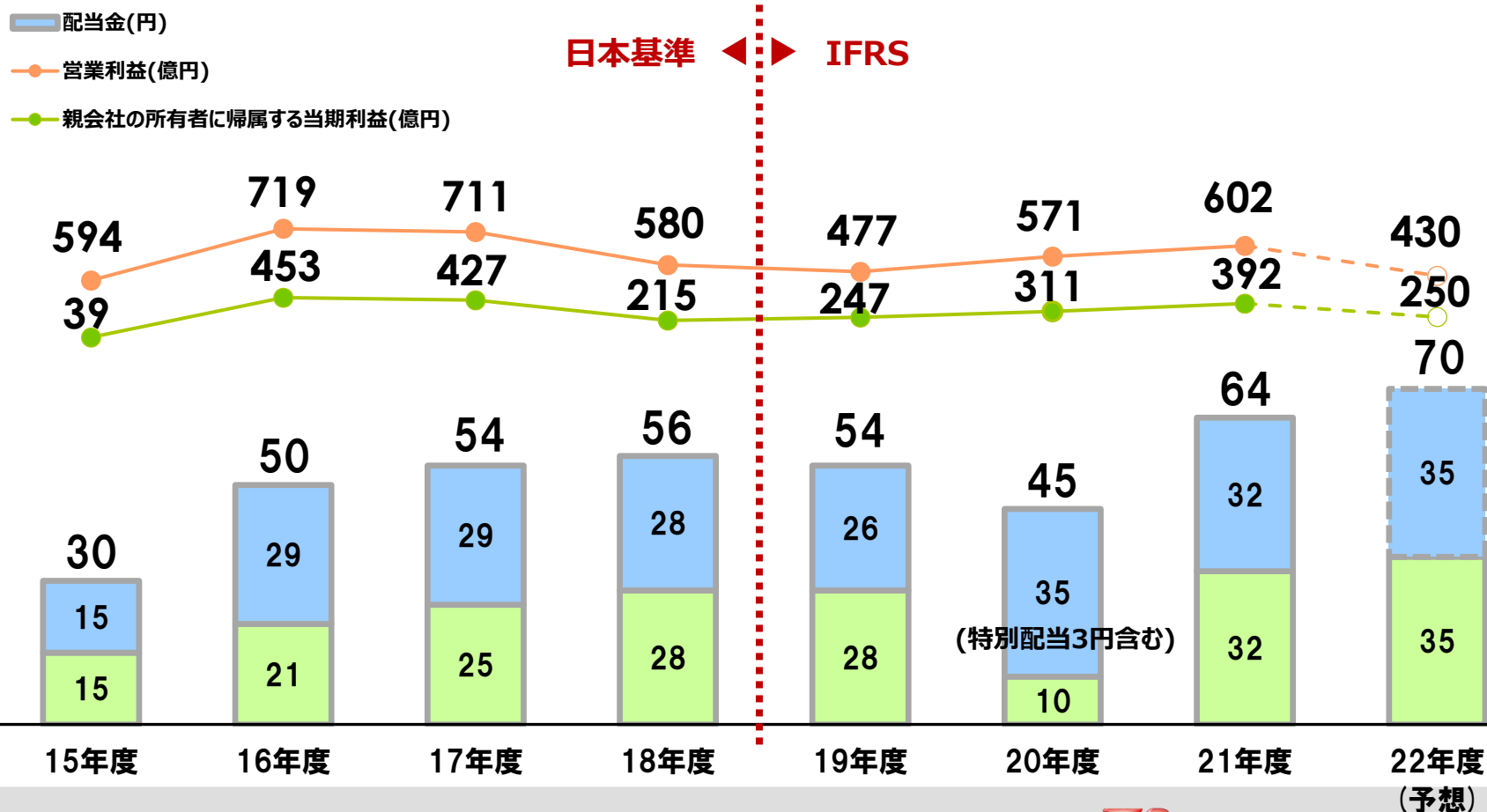
	上期		下期		通期	
日本	△80	△2.5%	20	0.6%	△60	△0.9%
北中南米	20	1.0%	△30	△1.7%	△10	△0.3%
中国	105	8.3%	94	8.4%	200	8.3%
アジア・オセアニア	140	12.1%	149	11.1%	290	11.6%
欧州・アフリカ	△58	△12.5%	68	10.7%	10	0.9%
連結全体	128	1.7%	301	3.8%	430	2.8%

- ◆なお、上期・下期の売上収益・営業利益につきましてはご覧いただいた通りです。

2-6) 2022年度 通期業績予想 株主還元

- 長期安定的な配当を継続し、21年度比6円増配の年間70円を予定、今後の連結業績などを総合的に勘案し決定

配当金および営業利益、当期利益の推移



- ◆次に、配当金でございますが、22年度につきましては、前年比6円増配の年間70円とさせていただく予定です。今後、長期安定的な配当継続の観点などから、連結業績などを総合的に勘案し決定いたします。

2-7) 2022年度第3四半期 総括

【第3四半期 実績】

- ・部品供給問題などに起因する生産制約の影響は引き続きあるが、
全社を挙げた収益確保により営業利益は前回公表レベルで進捗

【通期予想】

- ・第4四半期においても、日本での車種構成悪化や中国での減産など
厳しい外部環境が続くと予想する一方、**収益確保の継続と確実な
成果出しにより公表値達成に繋げる**
- ・新製品効果の最大化や諸経費の優先順位付けと効率化など、
収益力向上に引き続き取り組むと共に、「将来に向けた投資」は継続

スクリプト

- ◆最後に、当第3四半期決算を総括させていただきます。
- ◆当第3四半期におきましては、部品供給問題などに起因する生産制約の影響は引き続きありますが、全社を挙げた収益確保により営業利益は前回公表レベルで進捗しております。
- ◆第4四半期におきましても、部品供給問題に起因する日本での車種構成の悪化や中国での減産など、厳しい外部環境が続くと予想しております。一方で、新製品効果の最大化や、諸経費の優先順位付けと効率化など、収益確保の継続と確実な成果出しに取り組むことで公表値達成に繋げると共に、「将来に向けた投資」は継続する事で、足元の収益向上と将来に向けた成長の両立を図って参ります。

スクリプト

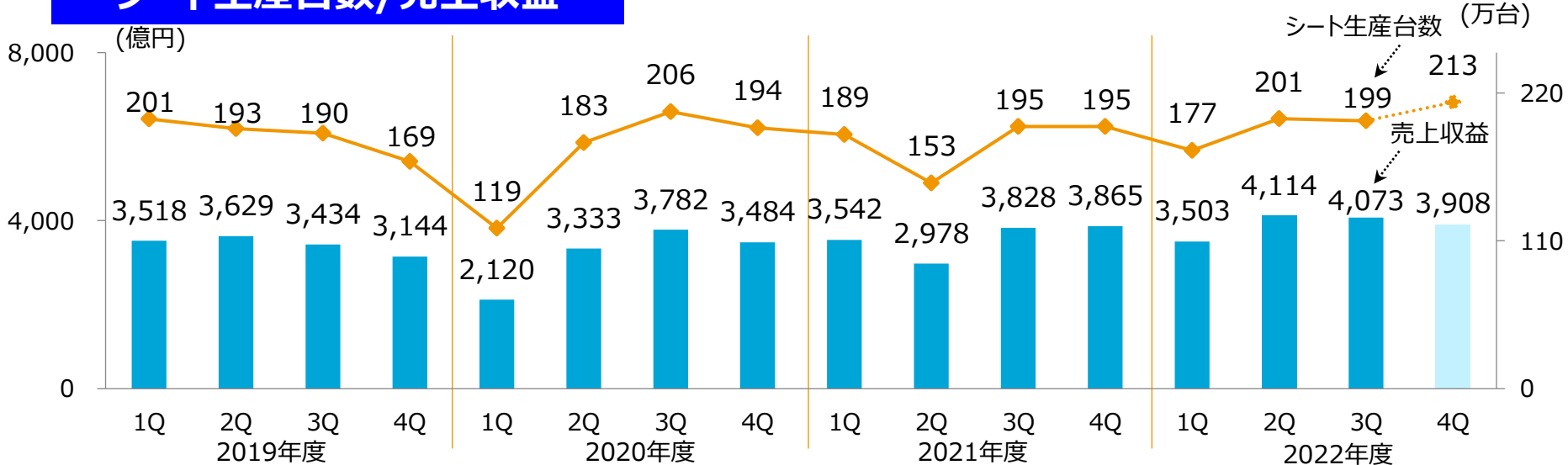
- ◆以上をもちまして、2022年度第3四半期決算の決算説明を終了させていただきます。ありがとうございました。

目次

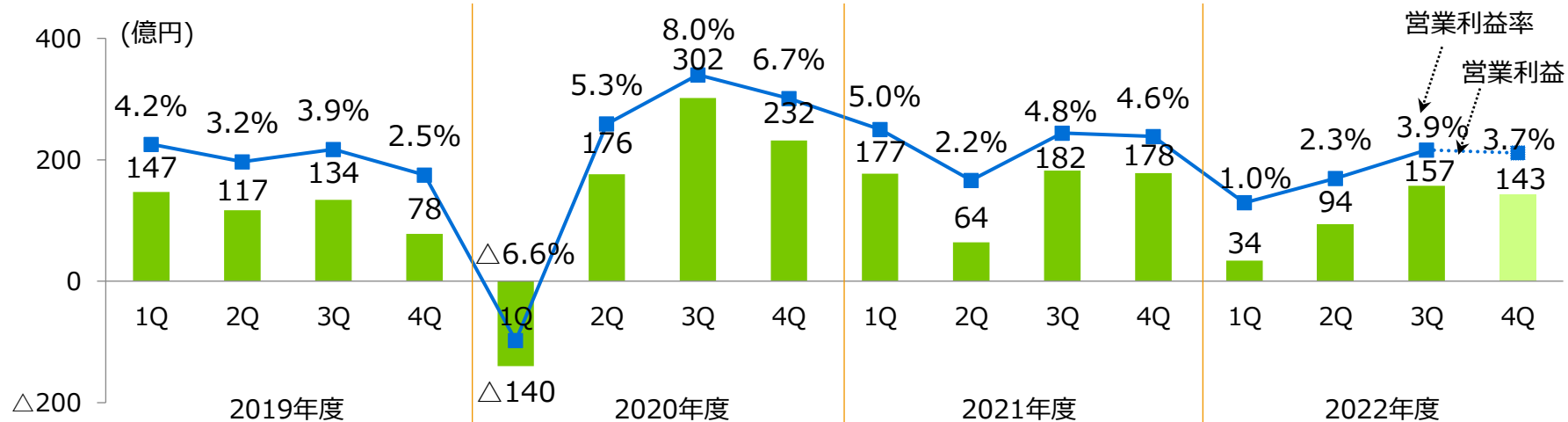
1. 2022年度第3四半期 決算状況
2. 2022年度 通期業績予想
3. **参考情報**

参考1) 四半期推移 連結 台数・売上収益・営業利益・営業利益率

シート生産台数/売上収益

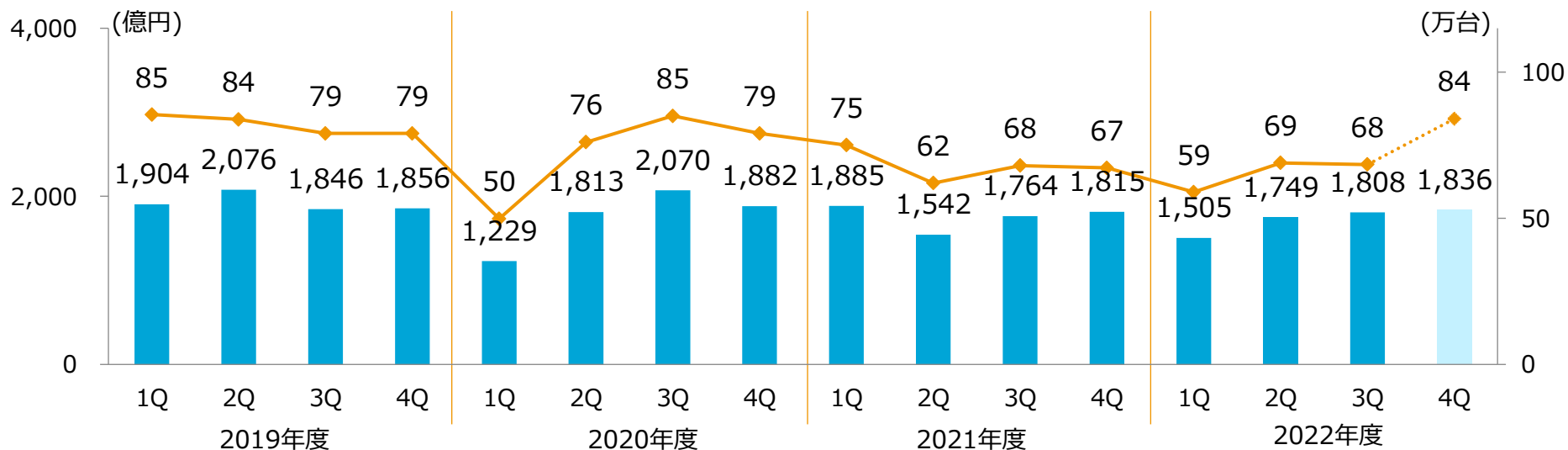


営業利益/営業利益率

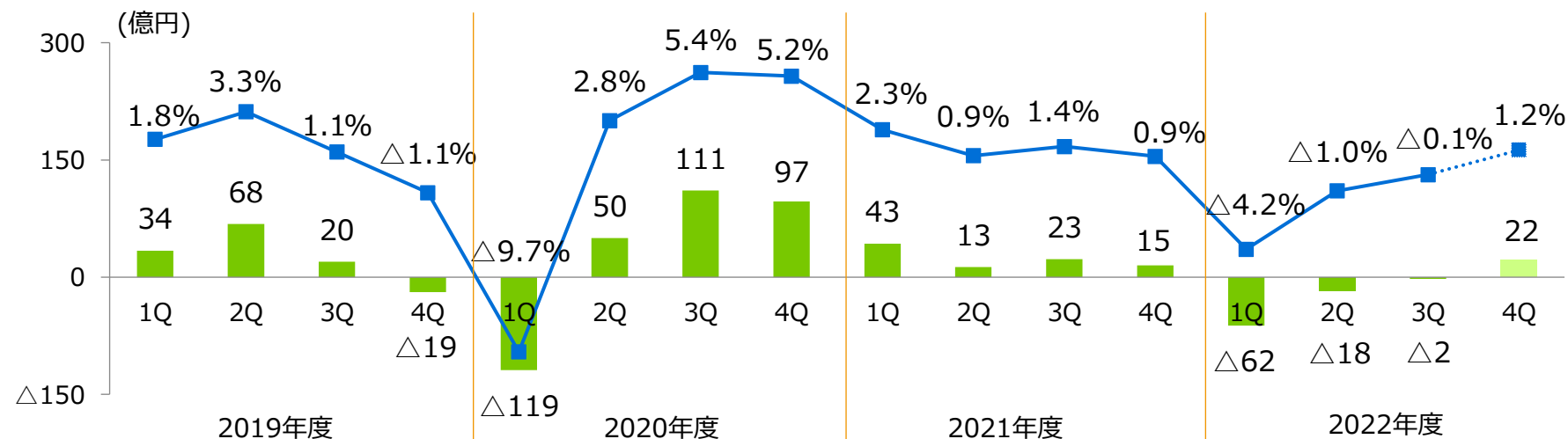


参考2) 四半期推移 日本 台数・売上収益・営業利益・営業利益率

シート生産台数/売上収益

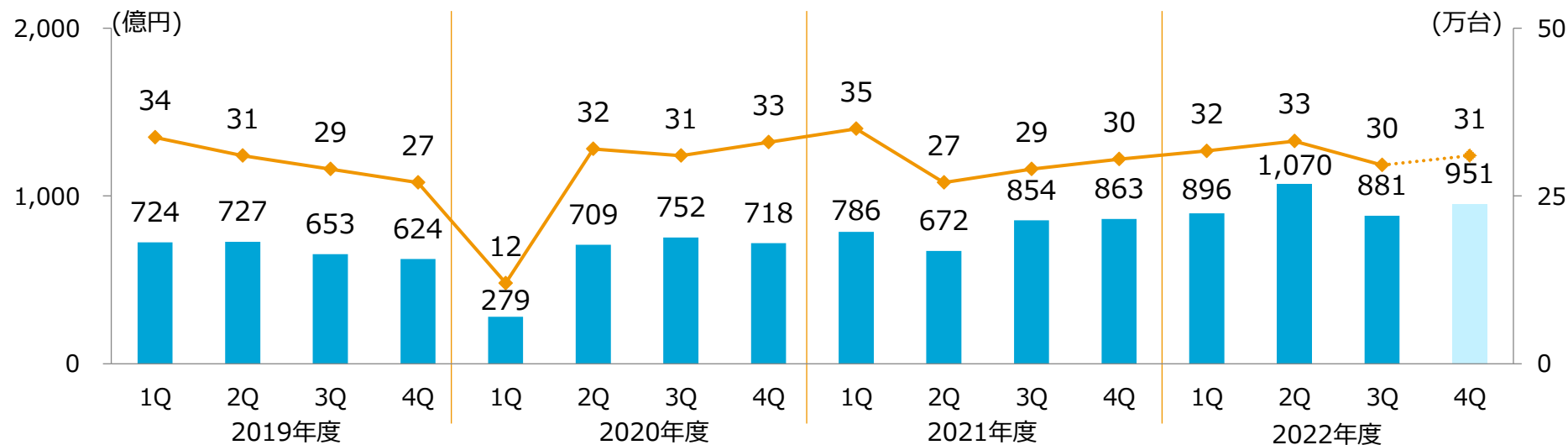


営業利益/営業利益率

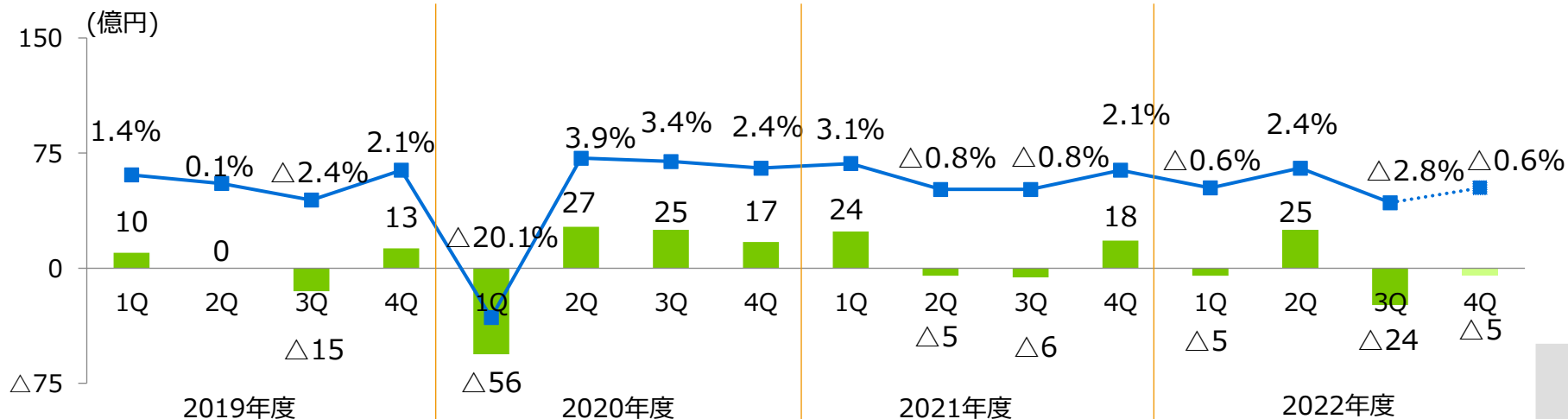


参考3) 四半期推移 北中南米 台数・売上収益・営業利益・営業利益率

シート生産台数/売上収益

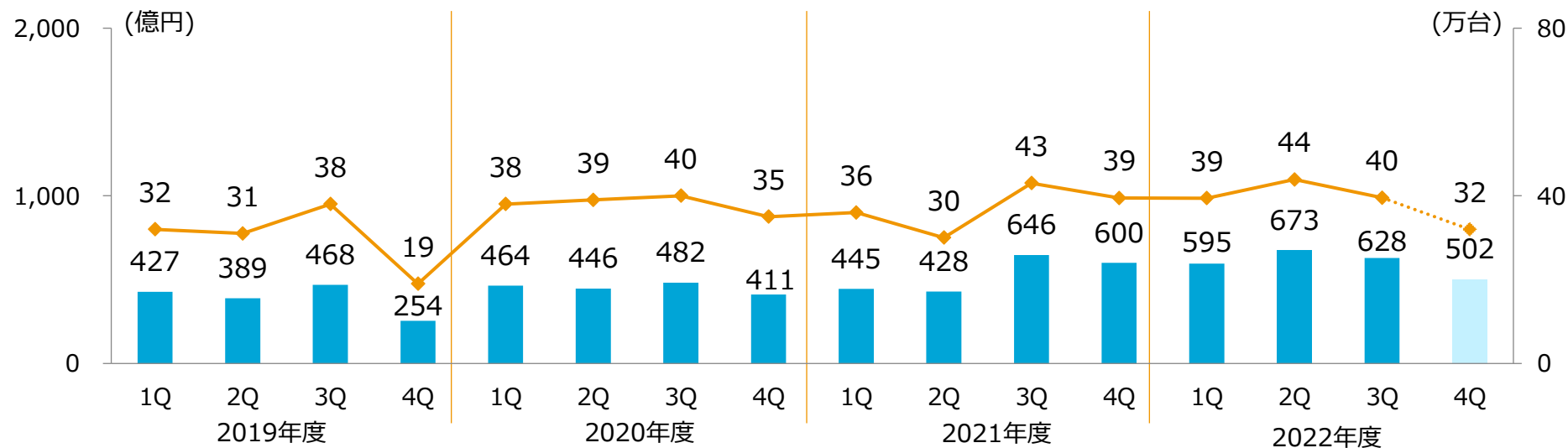


営業利益/営業利益率

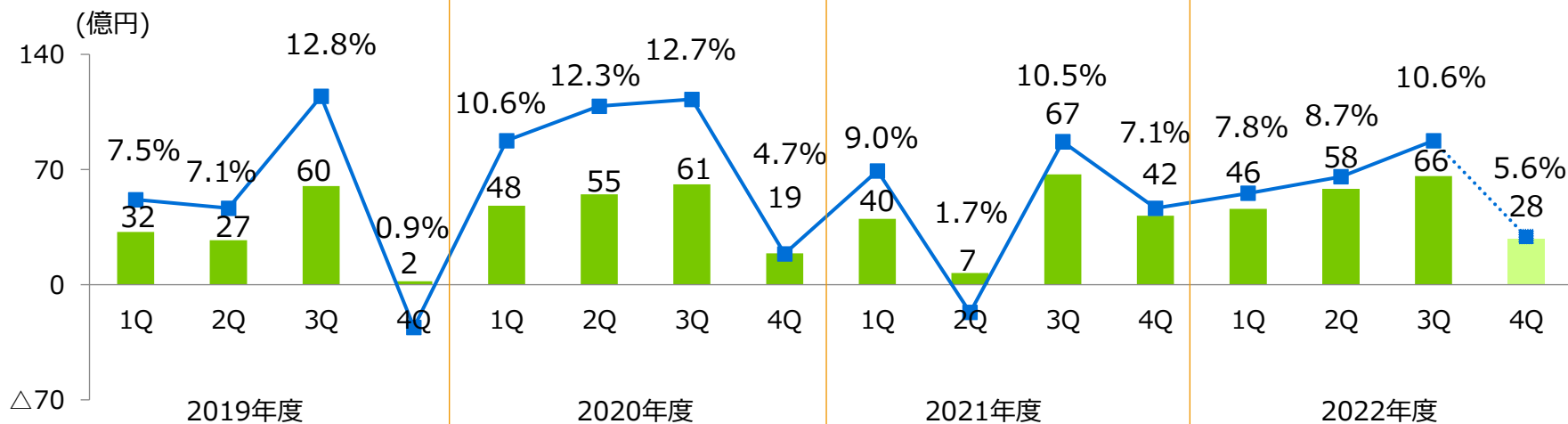


参考4) 四半期推移 中国 台数・売上収益・営業利益・営業利益率

シート生産台数/売上収益

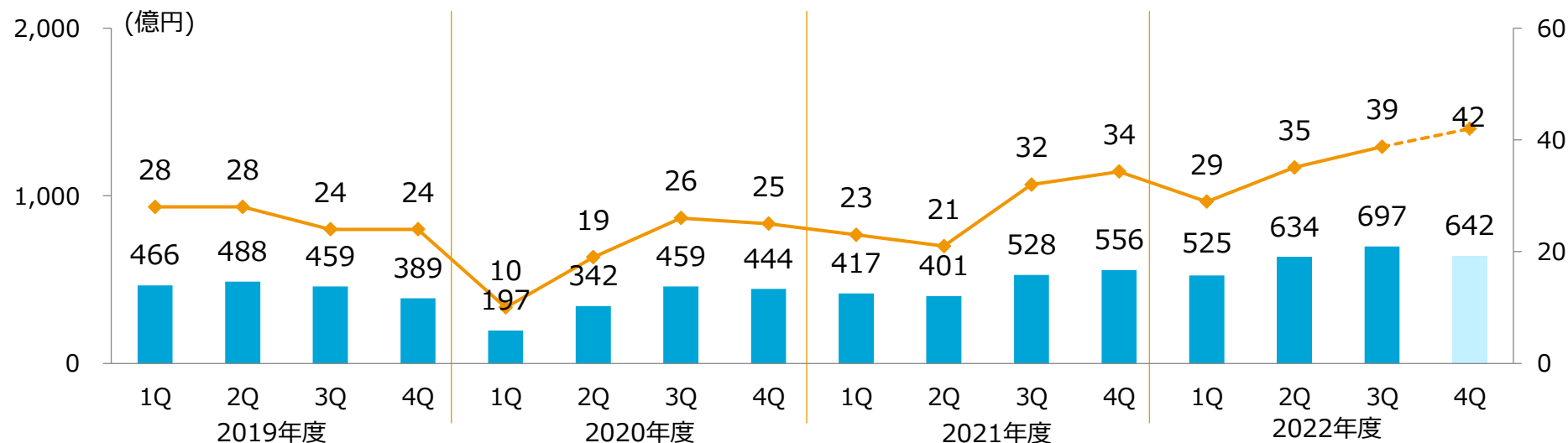


営業利益/営業利益率

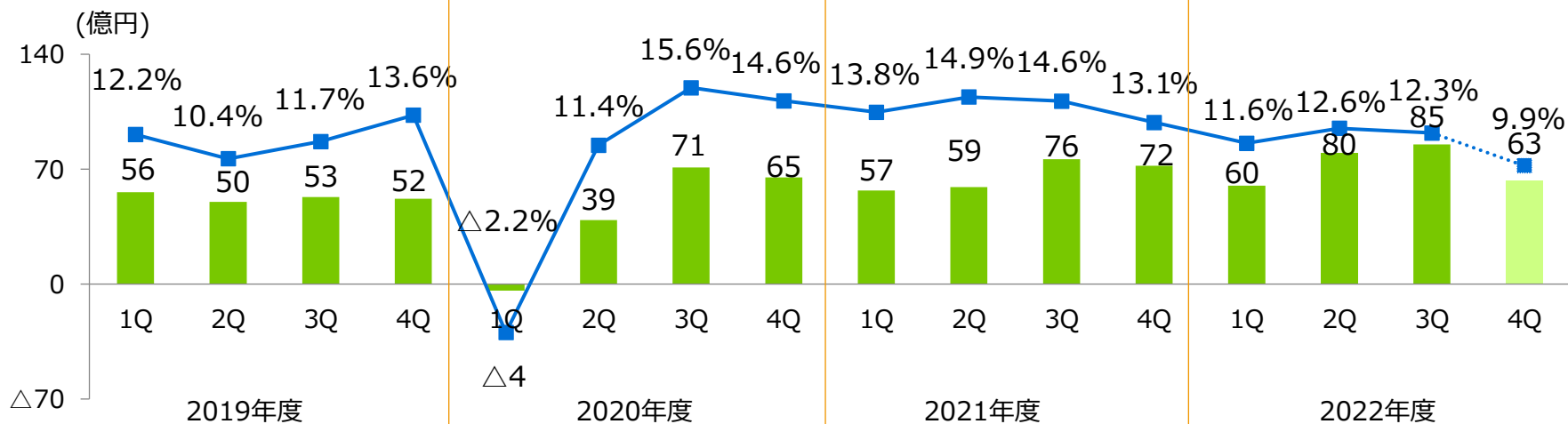


参考5) 四半期推移 アジア・北アフリカ 台数・売上収益・営業利益・営業利益率

シート生産台数/売上収益

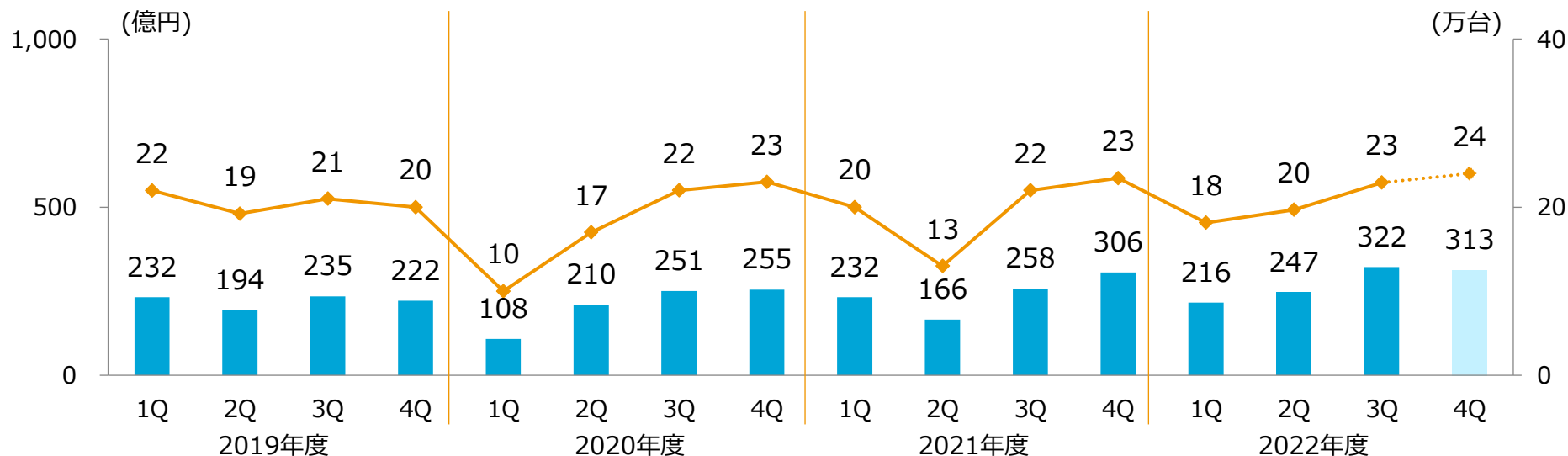


営業利益/営業利益率

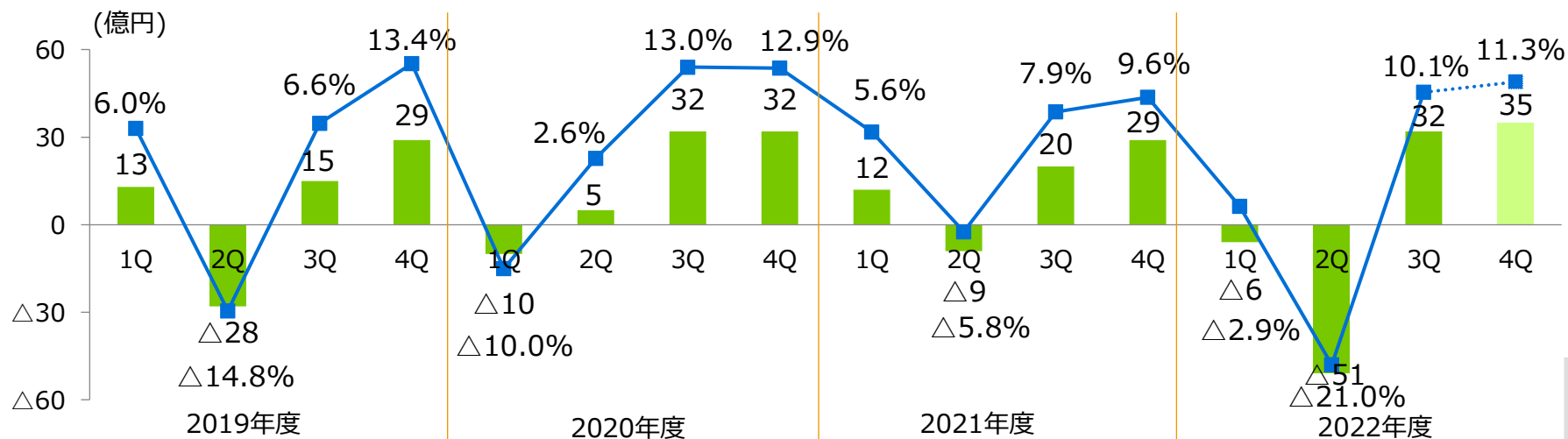


参考6) 四半期推移 欧州・アフリカ 台数・売上収益・営業利益・営業利益率

シート生産台数/売上収益



営業利益/営業利益率





<注意事項>

本資料に記載されている将来に関する業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想値であり、不確実性やリスクを含んでおります。

そのため 実際の結果は様々な要因によって業績予想と異なる可能性があります。